

- 2 エッセイ／“おかね”を語る
失敗の教訓 哲学者・お茶の水女子大学教授 土屋賢二
- 4 インタビュー／扉を開く
人がやらないからこそ燃える 岡野工業株式会社代表社員 岡野雅行
- 9 地域の底力——浜松市
永田農業研究所を訪ねて 静岡県浜松市
- 16 対談／守・破・創
市場競争も人材育成もポイントは
ダイレクト・コミュニケーション
株式会社アドバンテスト取締役相談役 大浦 溥
日本銀行政策委員会審議委員 野田忠男
- 20 池上彰のやさしい金融経済教室
日本銀行の「金融調節」とは？
- 24 にちぎんのある街から
長崎——外国文化になじんできた街
- 28 新連載 貨幣の歴史学
富本銭が語りはじめたこと 奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第一研究室長 松村恵司
- 32 知るぼると招待席
「金融教育フェスティバル2006」を開催しました
～大切なコト、知りたかったコトが楽しく学べる祭典～
- 34 トピックス
- 35 AIR MAIL from BEIJING
オリンピック・ドリーム？



表紙のことは

日本銀行長崎支店は、昭和二十年四月に事務所として開設され、二十四年三月に九州地区では六番目の支店となった。現在の店舗は、長崎の風土や歴史を考慮し、異国情緒あふれる街並みに調和するよう設計され、支店開設三〇周年にあたる昭和五十三年十二月に完成した。あずき色の屋根瓦、白亜の壁、西洋館を思わせる柱列が、背景の諏訪神社の森の緑に映え、シンボル・タワーとして地元諫早の自然石を積み上げ造られた高さ約一五メートルの塔屋を持つこの建物は、日本銀行の店舗の中で際立ってユニークとされる。同支店は、坂の街・長崎市炬粕町の高台に位置する。その地名の由来には二説ある。かつてここにセントルカス教会がありそれにちなんだという説と、銀の精錬所があり炉の粕が積み上げられていたことによるという説。いずれにしても長崎の古い歴史に思いを馳せさせる。

